

白藍塾オリジナル

2021入試小論文分析&解答のヒント

2021年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●早稲田・スポーツ科学部

今年度の課題も、かなり変則的だ。課題の円グラフについては、「スポーツに関するある割合を示したもの」とあるだけで、何の割合かは説明されていない。設問では、「この図が示しているものは何か」が問われている。つまり、スポーツに関する事柄の中で、選択肢となる2つの項目の割合が「7：3」に当てはまりそうなものを選べばよいわけだ。

とは言っても、もちろん正解を出すことが求められているわけではないだろう。「7：3」というのは、2つの項目の間かなりの差があることを示している。そのため、近年、スポーツの世界で格差が問題になっている事柄は何かを考えてみるとよい。その意味で、真っ先に思いつくのが、スポーツの世界における男女格差だろう。

最近では、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の森会長の発言が話題になったが、それを受けて、女性理事の比率の低さが問題になった。それ以外にも、「スポーツ競技人口の男女比」「オリンピック出場選手の男女比」「プロスポーツ選手の待遇・報酬等の男女格差」など、いくつか考えられるだろう。もちろん、男女格差以外にも、年代別（若者と高齢者など）・国別（先進国と途上国など）・競技別（メジャーなスポーツとマイナーなスポーツなど）などの格差が問題になっている事柄で論じやすいテーマがあれば、それでよい。

もちろん、「図が示しているもの」を答えるだけでは字数は埋まらないので、それについてなんらかの仕方で論じる必要がある。最も書きやすいのは、「この図が示しているのは、～という格差の問題だ」と示した上で、その格差を解消するにはどうすればよいか（対策）を論じることだろう。

書き方としては、第1部で図の示している問題とそう考える根拠を説明して、それを解決する対策をざらりと示す。そして、第2部以降で、それを検証していく形にするとよい。

このように見てくると、テーマを自分で設定するタイプのテーマ型の問題であることがよくわかるはずだ。問われているのは、スポーツの世界の現状や課題をどれだけ理解できているかという点なので、図との整合性にこだわりすぎる必要はないだろう。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>